

2021年度（令和3年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（小学国語）

学校名 池子小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体としても、分類別に見ても、平均正答率は全国平均を5%以上下回っており、テストで測ることのできる国語の学力については課題がある、と言わざるを得ない結果です。 ・問題番号後半の無回答率が大変に高くなっています。それらは、漢字や言葉の使い方を問う問題で、決して難易度の高い問題ではありません。前半の問題の文章の量が多いテストへの対応に慣れていない児童が多いことが理由だと思われます。 ・質問紙の結果からは、国語の学習への意欲の高さが感じられます。この意欲をくみ取って、子どもたちの国語の力を伸ばすように指導することが、教員の課題です。
<p>言葉の特徴や使い方に関する事項</p>	<p>学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと、文の中における主語と述語との関係や、修飾と被修飾の関係を捉えること、を問う出題でした。いずれも、正答率は全国平均を大きく下回っています。しかし、これらの問題の無回答率が他の問題に比べて高くなっていることから、この事項に関する力に課題があるとは言い切れません。</p>
<p>話すこと・聞くこと</p>	<p>スピーチの構成や、発表の際の工夫を問う出題でした。</p> <p>○スピーチの際に資料を用いる目的は、8割を超える児童が理解していました。</p> <p>●目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることへの理解が充分でない児童が3割を超えていました。</p>
<p>書くこと</p>	<p>自分の考えを主張する文章を書くことができるかを問う出題でした。</p> <p>○自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかを問う設問の正答率は全国平均を上回っていました。</p> <p>●目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを問う設問に正答できた割合は4割を切り、全国平均を大きく下回っていました。</p>
<p>読むこと</p>	<p>説明的な文章を読んで、その構成を捉えること、要約すること、必要な情報を見つけることができるかを問う出題でした。</p> <p>●文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けること、中心となる語や文を見付けて要約すること、それらを指定された文字数で記述することに大きな課題が見られます。</p>
<p>児童質問紙 国語に関する質問 問 43～51</p>	<p>○国語に関する質問への回答集計結果には、何ら問題点は感じられません。4件法の回答を2件法にして見ると、国語の学習への意欲は全国と比べて高いと言えます。</p>

2021年度（令和3年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（小学算数）

学校名 池子小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>全体としても、分類別に見ても、平均正答率は全国平均を5%前後下回っており、テストで測ることのできる算数の学力については若干の課題を感じます。</p>
<p>数と計算</p>	<p>●この領域の出題は4問でした。いずれも単なる計算問題ではなく、求め方の説明を記述する、示された計算結果を用いて問題の解答を導き出す、解答の根拠を説明する、ということが求められる設問でした。4問とも正答率は全国を5%以上下回っていました。</p>
<p>図形</p>	<p>三角形・四角形の面積についての出題でした。 ○複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を元に捉える設問の正答率は全国平均と同程度でした。 ●三角形の面積の求め方、三角形を組み合わせて構成した平行四辺形の面積を求める設問の正答率は全国平均と比べて若干低めでした。どちらの問題も回答は記述式です。そこに課題があるのかもしれませんが。</p>
<p>変化と関係</p>	<p>速さと時間、道のりの関係についての出題でした。 ○8割以上の子どもが、速さが一定であるときの、道のりと時間の関係についての問題に正答しています。 ●速さを求めたり、時間を求めたりする式と商に関する出題の正答率は、全国平均と比べて低くなっています。</p>
<p>データの活用</p>	<p>身の回りの事象について、統計的に問題解決する力を見る出題でした。 ○棒グラフの読み取りと、データを二次元の表に分類整理することについての設問の正答率は、全国平均とほぼ同程度でした。 ●集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断できるかどうか問う設問の正答率は、全国平均を大きく下回りました。</p>
<p>児童質問紙 算数に関する質問 問 52～60</p>	<p>○ほぼ全員が「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしているか」という質問に肯定的な姿勢を示しています。1年生のときから一貫してそのような授業がなされてきた成果と捉えています。 ●「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」「算数の問題の解き方が分からないときには、あきらめずに色々な方法を考えるか」という質問への肯定的な回答が、全国と比べて若干低めです。算数の学習へのモチベーションを高める必要性を感じます。</p>

2021年度（令和3年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（児童質問紙）

学校名 池子小学校

特徴的なことや課題と考えられること等

本調査の児童質問紙の回答集計からは、池子小学校の子どもたちは概ね望ましい生活習慣を身に付けており、学びに向かう力も良好であることがわかります。これは、日頃の様子を見て学校として把握していることとほぼ同じです。

全国平均よりも良い傾向が出ていたのは、「家庭におけるゲーム時間のコントロール」「自己肯定感」「人の助けになる行動をとろうという姿勢」「授業での発表への意欲」「話し合い活動への意欲」「国語の授業における学習活動への意欲」「新型コロナウイルス感染拡大による休校期間中の生活リズムの安定」です。

肯定的な回答が全国平均と比べて若干低めになっていた質問もありましたが、大きな問題点を感じることはありませんでした。

2021年度（令和3年度）全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

学校名 池子小学校

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

今回の調査結果からは、教科内容の理解に課題があるというよりも、根底にある「読解力」（「長文を読み解く力」と、「まとまりのある文章を書く力」）に課題がある可能性が見て取れますので、まずは、子どもたちの読解力を把握していきたいと思います。子どもの読解力については、種々の国内調査はもとより、国際比較によってもここ数年日本全体の課題となっており、池子小学校に限ったことではないとも言えますが、多くの設問で日本全国の小学校6年生の平均正答率を下回った、という事実は、学校の課題としてしっかりと受け止めなければいけないと考えています。その上で課題を明らかにし、その解決のための指導を探っていきます。

また、子どもたちの日頃の学習の様子を見ていて気になるのは、「早わかり」をしたがり、手間のかかることを避けたがる傾向がある子が多いことです。教員側としてはそれに応じて、授業の方法を「効率よく」「わかりやすく」「楽しく」知識や技能が習得できるように組まざるを得ない現状があります。しかし、それが本当に良いことなのかを子どもの「学力」の実態から問い直す必要があるのではないのでしょうか。子どもたちや保護者の方にも納得が得られるような形で、授業方法について再考していきたいと思います。

質問紙調査の結果からも見えてくる池子小学校の子どもたちの「良さ」を尊重しつつ、単にテストの点数を上げることを目的にするのではなく、教育基本法が掲げる目標を達成するよう指導を行っていきます。